

# Let's Talk! Times

Let's Talk! 英会話 レットトーク! 〒024-0024 北上市中野町2-12-23 / TEL / FAX 0197-65-3636 / Editor:セーラ / Design:Do!Planning

## Active Learning

2015年、日本を訪れた外国人の数は1,973万人(日本政府観光局1/19発表)、過去最高なそうです。東京を歩いていると外国人の多さに驚かされませんか?2016年伊勢志摩サミット、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピックなど、国際会議やスポーツの祭典が日本を舞台に繰り広げられます。この先、日本にいても世界の共通言語である英語を使えるか、使えないかによって、大きく差がついてくる時代になるのではないのでしょうか。では、21世紀に向けて、どのような英語力、英語人材が必要とされるか考えてみましょう。

### 「日本人は英語話さないの?」

“Japanese people don't speak English. Why?”と、日本を訪れたヨーロッパの人々に何度言われたことでしょうか。「日本は英語が通じない。英語を話す人が少ない。」という印象のようです。島国である日本には、古くから“察する文化”“阿吽の呼吸”などの言葉を介さず相手を理解することが美德とされ、湾曲の表現や間接的な表現が好まれてきました。加えて、和を重んじる日本文化、相手を慮る日本人の美しい心は、一方では“I”を明確に主張する国の人々には、わかりにくいようです。外国語で多様な歴史・宗教・文化的背景を持つ人々と接するときは、自分の考えを持ち、言葉を介して理解することが求められます。日本人特有の「人が自分をどう見ているか気になる。」「間違うと恥ずかしい。」という態度は、外国語でのコミュニケーションを難しくすることも覚えておきましょう。

### アクティブラーニング&クリティカルシンキングを

英語で話していると、“Why?”とよく聞かれます。「なぜ好きか、なぜそう思うか。あなたの考えを聞かせて。」と。私は、住んでいたアメリカで、訪れたヨーロッパで、家族や友達同士よく話し、時には意見がぶつかりあい、反論し合っている様子を何度も目にし、衝撃を受けました。対話すること、自分の意見を持つことが求められていました。インターネットの時代、世界中の情報を瞬時に入手し、人とつながることができるようになりました。英語がわかると、アクセスできる情報量、出会える人の数が何倍にもなります。しかしながら、身につけた英語を武器として使って行くには、自分の頭で考え、多くの情報のなかから取捨選択し、人と議論を重ねながらコミュニケーションできるチカラが必要ではないでしょうか。

### これから必要とされている英語力、英語人材とは?

最近教育現場でも、英語教育の現場でよく聞かれる“アクティブ

アクティブラーニングとは? (読売新聞 2015年12月4日 記事より)

子供たちが議論を通じて答えを探求する学習形態。米国で実践され、日本では大学で多く導入されている。小中高でも総合学習などで行われてきたが、文部科学省は2020年度から順次実施する次期学習指導要領に盛り込み、全ての教科指導に導入することを目指す。子供たちに知識だけではなく、思考力や表現力、主体的に学ぶ態度等を身につけさせるねらいで、英語で討論をしたり、歴史の学習で自ら調べた内容を発表したりすることが想定されている。



ラーニング”に欠かせないcritical thinkingという言葉を知ったことはありますか?物事を批判的な思考を働かせて分析することで、アメリカやイギリスの教育現場では、小学校の頃から学んでいくスキルです。情報を鵜呑みにするのではなく、情報や他人の意見を「本当にそうなの?」と疑問を投げかけ、最終的には自分の頭で判断する習慣です。これは、生徒自らが能動的に体験しながら学ぶことで、多面的に物を考える力を育てます。レットトーク!では、これまで以上にプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを行いながら、アクティブラーニングに力を入れていきます。英語脳、英語のココロを育てましょう。

## Let's Try! 英語脳で話す練習をしてみよう!

- 1 感じたままを言ってみよう。大人が見本を示して。
- 2 “I think ~ because ~ .” “I want ~ because ~ .”の順序で話す練習を。英語は論理的。自分の考え、主張をはっきり述べ、理由を伝える。
- 3 “Why?”と聞いてみよう。“Why?”と考えてみよう。1つの正解を求めないで!

1/6 [世界を知ろう・世界と触れ合おうWS]  
(水) [番外編] 世界の縮図 ミラノ万博  
~日本館から観た184日間~

1/24 2015年度第3回実用英検 試験日  
(日)

2/8 2/18 オープンクラス②  
(月) ~ (木)

1/30 [世界を知ろう・世界と触れ合おうWS]  
(土) [第5弾]  
オードリー・ヘップバーンから貴女へ

2/22 2/26 保護者面談  
(月) ~ (金)

INFORMATION

# レッスン拝見

月曜日16:00~16:50

学年：小学校低学年(英語学習1~2年目)

## いつものレッスンこんな風～

**1. 歌って踊って!**…英語の歌のCDに合わせて元気に歌おう!教室中を動き回ります。

**2. 絵本の読み練習**…全員で読み練習をしながら馴染んできたら、内容について想像したり考えたり、ミニ劇をしたり最後は音読発表をします。絵本には、英語圏の国々の生活文化、価値観などが潜んでいる活きた教材です。

**3. ライティング**…アルファベット大文字、小文字を全部書けるようになり、英単語を書く練習中。

### 4. セーラの英語絵本読聞かせ

#### 宿題

絵本、テキストのCDを毎日聞き、声に出して練習し、スタンプカードに日付を記入する。

### この時期の子どもたちの英語学習の特徴

- ・英語の「耳」と「感性」が育つ時期です。
- ・発音が抜群によい。(カタカナ英語ではなく、英語のリズム、イントネーションを丸ごと体得する能力に長けている)
- ・間違いを気にせず、どんどん言う事ができる。
- ・恐るべし暗記力!すぐ覚える、すぐ言える。

### 4月からの9ヶ月でできるようになったこと

- ・英語の歌が10曲歌える!
- ・絵本を3冊読めた!(From Head to Toe, The Lady With the Alligator Purse, Peanut Butter and Jelly)
- ・アルファベットの大文字、小文字が書ける!



### セーラより

このクラスの生徒たちの集中力の高さ、やる気には驚かされます。すごい!毎日家で絵本のCDを聞いている成果が表われ、吸収力がUP。絵本を読めるように、英語の歌を口づさむのが速くなってきました。外国語を習い始めて最初の1、2年はその言語の音に慣れることが大切。毎日聴いて真似をして言ってみる、英語を聴くことを継続していくと、吸収しやすくなる時がやってきます。その時期には、個人差がありますから、どうぞお子さんの変化に気づき、楽しそうに少しでも英語を発話したら、思い切りほめてあげてくださいね。

## Report



# 『世界を知ろう・世界と触れ合おうWS』

## 番外編『世界の縮図ミラノ万博 ～日本館から観た184日間～』

※終了しました

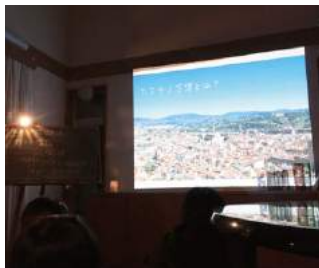
1/6(水) 14:00~15:30, 18:30~20:30 開催

参加者:27名(小学5年生~大人)

講師:鈴木明弥<(Let's Talk!卒業生。大学在学中に、イタリアピサ大学へ1年間留学、現在イタリア関連事業を展開中。東京在住。)>

**前半** ミラノ万博『日本館』でアテンダントを務めた明弥より、万博についてや『日本館』の内外について、映像を交えて楽しいトーク。

**後半** 「次の万博を自分たちで企画しよう!」グループワーク。小・中・高校生が1つのチームとなり、開催地・万博のテーマ・日本館のテーマを20分の持ち時間で話し合い、その後グループごとにプレゼンを行いました。大人が審査員となりコンペ、投票ポイントは、一番行ってみたい!と思った万博・一番心に響いたプレゼンテーション・一番和気あいあいと制作していたチームの3点でした。



\*第5弾です



## 『世界を知ろう・世界と触れ合おうWS』 [第5弾]『オードリー・ヘップバーンから貴女へ』

2016年1月30日(土) 16:00~17:30  
参加費:500円/定員:15名/講師:安保訓子先生  
お申し込みはセーラまで

Column

# A Cup of Tea

一杯のお茶から世界が見える～



この冬から、教室にお茶を用意しています。Myカップでお茶を飲むことが習慣になってきたよう、生徒たちは「今日のお茶なに?」と教室に入ってきます。

一杯のお茶から世界が見える。歴史や産地や農園のこと・・・地図を眺めながら、そのお茶に纏わる小話をしております。

「お代わり!」・・・は英語で何て言うの? 英語も使いながら身につけていきましょう。ペットボトルの飲み物が多く出回っている昨今、大量生産・大量消費の社会への私のささやかな反抗、そして茶葉で淹れたお茶の美味しさを子どものうちから味わってほしいとの願いからです。お茶でほっとひと息、生徒たち同士の心の距離もぐんと近くなっています。リラックスすると集中力が高まるのも、お茶の効果ですね。

## ～12月、1月のお茶～

12月	1週目	ダージリンティ	〈インド,イギリス〉
	2週目	ウーロン茶	〈台湾〉
	3週目	セイロンティ	〈スリランカ〉
	4週目	アップルティ	〈スリランカ,フランス〉
1月	1週目	麦茶	〈日本〉
	2週目	ミント&ジンジャーティ他	〈タイ〉



## セーラの 世界の窓から

### Theatre Antique

古代劇場 (仏プロヴァンス地方 アルル)

紀元前一世紀末に築かれた建造物。17世紀に再発見され、1827年から55年の歳月をかけて、発掘された。階段状座席は約10,000人を収容できたと言われている。古代ギリシャ式、古代ローマ式の喜劇、悲劇、パントマイムなどが上演されていた。現在は、100本以上あったといわれる大理石の柱数本が残っていて、今でもコンサートやオペラが行われている。

この古代劇場がある南仏アルルは、この街の景観に魅了されたゴッホが移り住み2年間滞在、200点以上の作品を遺したことで知られる。この街は、紀元前1世紀にカエサルが築いたローマの植民都市。

## Essay

## ミラノで日本の食を想う



"Expo Milano 2015"に行ってきた。ミラノ万博は、2015年5月から10月まで開催された国際博覧会、5年毎に場所を移し行われる万博を“地球規模の学園祭”と、そこで働いていたAyaは言う。Milano Expoのテーマは“Feeding the Planet, Energy for Life.地球に食料を、生命にエネルギーを”。身近な“食”がテーマ、食いしん坊集まれー!である。

100以上ある各国パビリオンのなかでも、とりわけ人気だった『日本館』ここでアテンダントとして働くLet's Talk!卒業生を訪ねてミラノに向かった。ミラノ到着の翌日、午前中から早速万博会場があるRho Fiera Milano駅へ。駅から直結している万博会場入り口に着くと、すでに入場待ちの人々の長い列があった。私は1時間待ち会場入り。様々な人種の人人人…東西に伸びる大通りの両脇には世界各国のパビリオンが並ぶ。“地球規模の学園祭”Ayaが言っていた意味がよーくわかる。その雰囲気味わいながら、立ち止まっては目を凝らし、そうして辿り着いた『日本館』は、正面入り口の遠くの方に位置、木造りの建物、日本全国の日本酒ディスプレイが目を惹く。そして、横には長蛇の列。この時の待ち時間は“2時間半”と表示されていた。「待つのが嫌いなイタリア人が待っているのだから、相当なことよ!」と、『日本館』スタッフのAya。

そして、ドキドキしながら外国人の気分で中に入ると…書とアートが織りなす日本の芸術が表現された映像が、迎えてくれる。次の部屋は、日本の四季折々の田園風景や祭りが表現された部屋、次は米や出汁昆布、おにぎり、味噌汁など食材がディスプレイされている部屋。7つある部屋を1つ1つ五感を全開にして眺める。漆器等の展示スペースには息をのんだ。日本の伝統工芸、職人技は私たちの誇り。侘び寂び、静寂の美。日本の風土のなかで育まれてきた芸術文化が集められている。続いて、現代日本の技術力が伺われる部屋へ。地球全体

のエネルギー問題、食料問題等が映像やデジタルで表され、日本は何ができるかという提案、発信がされていた。そして最後の部屋は、日本の食をバーチャル体感をさせてくれるFuture restaurant。箸を持ち、目をテーブルに落とすと美しい懐石料理が次々映し出される。お見事!

にぎわう人の流れの中で、日本に感心を寄せ、感動している外国人の背中を眺めながら、ジーンと胸がアツくなるのを感じた。ニッポンに初めて旅した外国人のような目線で我が国を眺め、改めていい国だな〜と。平成25年『ユネスコ無形文化遺産』に登録された和食は、世界に誇る食文化ではないか。日本人がいかに四季折々の自然の恵を大切にしてきたか、日本食は私たちの祖先が暮らしの知恵のなかで大切に育んできた文化であるか…出口に向かいながら、空を仰ぐように凜と枝を伸ばす松の木の前で立ち止まり、日本人の自然感や宗教観を想った。

海の幸、山の幸に恵まれた日本の食、それなのに我が国の食料自給率は現在50%を切っている。食の欧米化、インターネットの時代、世界の食べ物が容易に手に入るようになった。TPP導入は、日本人の食卓にどのような影響を与えていくのだろうか。

私自身は食べることも、料理も好き。国内外を旅してはその土地の食べ物を食べてみる。何でもトライする、これからも。それでも、「おばあちゃんが作ってくれた素朴な昔のごはんが一番」と思うようになり、昆布と煮干しで出汁をとり、鍋で玄米ごはんを炊く。最後の晩餐は、母の梅干しと炊きたてのごはんがいい。私たちの舌が覚えている、心が覚えている味の記憶がある。それは魂が喜ぶこと。私たちの体を作り、心を育ててきた食べ物、そこに立ち返ることは私たちのアイデンティティを確かなものにしてくれるのではないだろうか。

『セーラの英語さんぽ道』より <http://www.letstalk1989.com/knack.php>



## 勇太のサンパウロから Oi!

—— パタゴニアに行ってきました ——

最終回

ブラジル最後の旅行はアルゼンチンの南にあるパタゴニアに行きました。パタゴニアと言えば、氷河で有名な観光地です。実際に観光しているとあちこちから外国語が聞こえてきました。

飛行機を2回乗り換えパタゴニアに近づくと、飛行機の窓からは青緑色の湖と平地が永遠と続いているように見え、氷河に近づくと肌寒く感じられました。本物の氷河はテレビとは比べものにならないほどスケールが大きく、想像以上の迫力でした。僕のような初心者でも氷河

をトレッキングすることができ、実際に登っていくととても高く、眺めも良くなり見渡す限り氷河が続いていて、氷河の大きさと自然の素晴らしさを改めて感じることができました。

夜は、ホテルの近くのレストランで有名なラムを食べました。お皿いっぱい盛られたラムはボリューム満点で、とても柔らかく美味しかったです!

ブラジル生活で旅行に行ける最後の機会にパタゴニアに行けることができて本当に良かったです。

今月号より紙面をリニューアルしました。構成、デザインをDo!Planningさんにお願ひしています。どうぞ、ご意見、ご感想をお寄せください。

### 編集後記

新しい年が明け、子どもたちとのレッスンにウキウキのセーラです。さあ、2016年はどうな出会い、学びが待っているかな。楽しみにしましょう。本年もどうぞよろしくお願い致します。  
セーラ

今回から、デザインをお手伝いさせて頂くことになりました。Let's Talk!の楽しさやワクワク感をもっともっと伝えられる紙面作りに努めて参ります。今度ともどうぞ宜しくお願い致します。

DO!PLANNING

TEL / FAX 0197-65-3636

<http://letstalk1989.com>



氷河トレッキング中の父と僕



ペリトモレノ氷河



ラム肉